

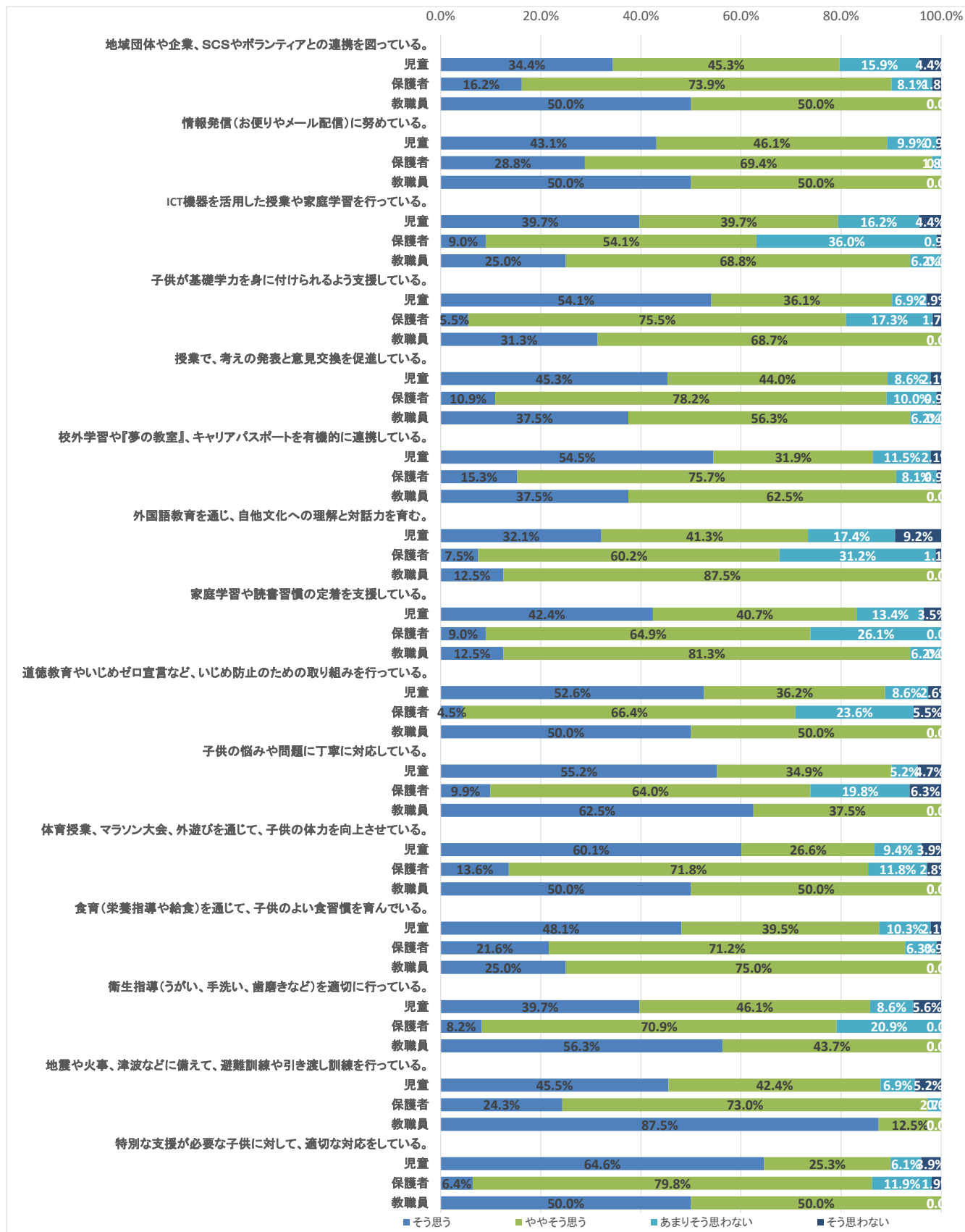
令和7年度 学校評価アンケート

令和8年1月19日
東金市立正気小学校
校長 佐藤 大作

令和7年12月に実施いたしました学校評価アンケートの結果をお知らせいたします。学校評価アンケートの内容について、今回は学校要覧に記載した「経営の重点」に基づき大幅に変更しました。また、学校としての自己評価を行いました。これらの結果を基に、学校運営懇談会委員の意見等を踏まえつつ、学校教育の一層の充実に努めてまいります。御協力ありがとうございました。

【表示の仕方と回答数等】

上段＝児童（回答数 238人）
中段＝保護者（回答数 111人）
下段＝教職員（回答数 16人）



令和7年度 正気小学校 学校評価（自己評価）

1 学校教育目標

豊かな心を持ち、進んで学び、たくましく生きる児童の育成

2 自己評価結果

- (1) 「割合」の欄は、「そう思う」「ややそう思う」を合わせた肯定的な回答の割合
(2) 「取組状況の目安」 80%以上：A 60%～80%未満：B 60%未満：C

No.	項 目	評価者	割合	取組状況	改善の方策
創意ある学校経営	地域団体や企業、SCSやボランティアとの連携を図っている。	児童	79.7%	B	R6に比べて地域との連携や情報発信への評価が児童・保護者・教職員のいずれにおいても上向いた一方、三者間の認識差を縮めるため、活動の見える化と分かりやすい情報提供が求められる。
		保護者	90.1%	A	
		教職員	100.0%	A	
	情報発信（お便りやメール配信）に努めている。	児童	89.2%	A	
		保護者	98.2%	A	
		教職員	100.0%	A	
人生を主体的に切り拓くための学びの確立	ICT機器を活用した授業や家庭学習を行っている。	児童	77.4%	B	R6と比較すると、R7では基礎学力の定着支援や思考・表現活動、キャリアパスポートを活用したキャリア教育、家庭学習支援の面で児童・保護者・教職員の評価が総じて向上し、授業改善の成果が外部からも認められ始めている。 一方、ICT活用については教職員の手応えが高まった反面、児童・保護者の評価はR6より低下しており、活用場面の意義や効果が十分に伝わっていない可能性がある。 また異文化理解やコミュニケーション能力の育成に関する項目では、児童・保護者の実感がまだ高まっていないが、本年度よりJRCに加入しており、2月にはスリランカの方を招いて4～6年生を対象とした授業を計画している。こうした取組を通して、活動内容や成果を児童・家庭へ可視化し、学びの意義を共有することで三者の認識差は縮まっていくと考えられる。
		保護者	63.1%	B	
		教職員	93.8%	A	
	子供が基礎学力を身に付けられるよう支援している。	児童	90.2%	A	
		保護者	81.0%	A	
		教職員	100.0%	A	
	授業で、子供は自分の考えを発表し、友達の考えと意見交換できるよう指導している。	児童	89.3%	A	
		保護者	89.1%	A	
		教職員	93.8%	A	
	校外学習やキャリアパスポート、「夢の教室」などを教育活動の中で効果的に活用できている。	児童	86.4%	A	
		保護者	91.0%	A	
		教職員	100.0%	A	
	外国語科や外国語活動を通して、自国と異国の文化への理解を深め、コミュニケーション能力を養う指導をしている。	児童	73.4%	B	
		保護者	67.7%	B	
		教職員	100.0%	A	
	家庭学習や読書習慣の定着を支援している。	児童	83.1%	A	
		保護者	73.9%	B	
		教職員	93.8%	A	
心道の徳教性を育を高め進める健康をたくましく生きているための推進	道徳教育やいじめゼロ宣言など、いじめ防止のための取り組みを行っている。	児童	88.8%	A	R6と比べてR7では、子どもの悩みや問題への対応、体育や外遊びによる体力づくり、給食や衛生指導、安全指導など生活・健康・安全に関わる諸項目で保護者と教職員の評価が高まり、学校が日常の生活面を丁寧に支えていることがうかがえる。特に給食や衛生指導では、栄養バランス・食習慣・衛生習慣に関する継続的な取組が家庭に安心感として受け止められている。 一方、児童の評価は全体として安定しているものの、保護者や教職員に比べると低めで、生活面の指導が“あたりまえの日常”に埋もれ、意図や成果が実感として伝わりにくい可能性がある。この差は、成果が行動習慣や生活感覚のレベルで蓄積される領域であるがゆえに、可視化や振り返りが不足しやすい点にも起因すると考えられる。 今後は活動の意味付けや成果の見える化を工夫し、家庭との協働によって生活習慣と安全意識の定着をさらに促していきたい。
		保護者	70.9%	B	
		教職員	100.0%	A	
	子供の悩みや問題に丁寧に対応している。	児童	90.1%	A	
		保護者	73.9%	B	
		教職員	100.0%	A	
	体育授業、マラソン大会、外遊びを通じて、子供の体力を向上させている。	児童	86.7%	A	
		保護者	85.4%	A	
		教職員	100.0%	A	
	食育（栄養指導や給食）を通じて、子供の良い食習慣を育てている。	児童	87.6%	A	
		保護者	92.8%	A	
		教職員	100.0%	A	
	衛生指導（うがい、手洗い、歯磨きなど）を適切に行っている。	児童	85.8%	A	
		保護者	79.1%	B	
		教職員	100.0%	A	
	地震や火事、津波などのなどの災害に備えて、避難訓練や引き渡し訓練を行っている。	児童	87.9%	A	
		保護者	97.3%	A	
		教職員	100.0%	A	
特別支援教育	特別な支援が必要な子供に対して、適切な対応をしている。	児童	89.9%	A	R7では特別な支援を必要とする児童への対応がR6より評価され、支援の適切さや体制の充実がうかがえる。 引き続き個別のニーズに応じた柔軟な支援を進めたい。
		保護者	86.2%	A	
		教職員	100.0%	A	